

もじのかたちをとらえるための ひらがなえほん

小野村 哲

私達が「もじのかたちをとらえるための ひらがなれんしゅうちょう」を初めて出版したのは2005年3月でした。地元を除いて一般書店への流通は行っていませんが、NPOの出版物として全国各紙でも取り上げられ、これまでにおよそ10,000部を販売。国公立幼稚園や小学校でも採用されています。

リヴォルヴ学校教育研究所では、おもに不登校の状態にある子ども達や学習でつまずきがちな子ども達の支援に取り組んでいます。私は16年間、公立中学校で教師をしていました。しかし今、改めて驚いているのは、読むことや書くことの困難が原因のひとつとなって不登校などの状況に至っている子ども達が、予想していた以上に多いということです。この「れんしゅうちょう」は、そうしたつまずきを事前に回避、軽減することを目的として作成されたものです。

そして今回ご紹介させていただく「もじのかたちをとらえるための ひらがなえほん」は、既版「ひらがなれんしゅうちょう」の絵本版で全5巻の出版を予定しています。今回はまず第1巻のみ出版となりますが、その前半ではキャラクター達が繰り広げる物語を通して、ひらがなの読みに習熟できるようになっています。「あいうえ おおきなくまさんも」「かきくけ こんこんこぎつねも」「さしすせ そろそろやってくる」と楽しくテンポの良いお話は、読み聞かせにも適しています。

第2巻から第4巻の前半では、「の」のなかま「め」「ぬ」、「よ（あしくる）」のなかま「よ」「ほ」など、形の似た文字ごとにグループ分けをし、指でなぞって練習をします。文字を覚えての頃は、“し”が“J”となってしまうことも少なくありませんが、かわいい犬のイラストとともに「しっぽの“し”」などと示すことで、文字の基本形を絵の中で印象付けられるように工夫してあります。また、ジェットコースターの動きに合わせて、「よこせんかいて、

たてくる“す”」など、文字の形を言葉にして、目からだけではなく耳からも文字形のヒントが得られるようにしています。第5巻では、濁音と半濁音を織り込んだ、楽しいお話が展開されます。

各巻とも後半は、言葉遊びのページです。単語や文を読むということは、ただ与えられた文字を音にしていくという受身的な行為ではありません。事実、子どもたちの中には、「く」「ま」をそれぞれ音声化できてもそれを意味につなげることに困難を示す子もいます。「なにがかくれているかな」では、「まいくまめ」などの中から、「くま」という隠れた単語を探し出す言葉遊びを通じて、子ども達の読む力を伸ばさせます。

また、この言葉遊びは私達のホームページ上 (<http://www.rise.gr.jp/>)でも楽しんでいただけます。その他、英語のデジタル教材も公開していますので、ぜひ一度お立ち寄りください。

なお、「もじのかたちをとらえるための ひらがなえほん」のご購入に際しては、上記ホームページ上から直接お申込みいただくか、ファックスにて受付させていただいております。Amazon.co.jpでもお買い求めいただけますので、こちらもご利用ください。

(おのむら さとし：リヴォルヴ学校教育研究所)

・問合せ先 TEL&FAX 029-856-8143

〒305-0051 つくば市二の宮 4-8-3 1-404

*上記の出版物から得られた収益は、いばらきマナビィ・ネットを通じて、不登校児童生徒を対象とした「カルチャー教室」の実施や小中学校等へのゲスト・ティーチャー派遣プログラムの実施など子育て環境の充実のために活用されます。

*「音の足し算」など、これまでにはない練習方法が魅力の「ABC英語れんしゅうちょう」も好評発売中です。



「ひらがなえほん1」 ¥760 + 税